

# JOMA 通信



Japan Overseas Missions Association

海外宣教連絡協会 公報 No. 70号

## キリストにあって一つとなる

日本バプテスト教会連合世界宣教部  
JOMA書記 福井誠

その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです。(エペソ3:6)

その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゅろの枝を手に持って、御座と子羊との前に立っていた。(黙示録7:9)

JOMAが設立されて、早42年となります。JOMAの設立目的は、WEBでも公開されていますが、

- 1) 諸教会の間に海外宣教についての理解が深められるための事業、
- 2) 宣教団体の効果的な協力を促進するための事業、
- 3) 会議、研究会、宣教大会などの開催による会員相互の交わりを行う、

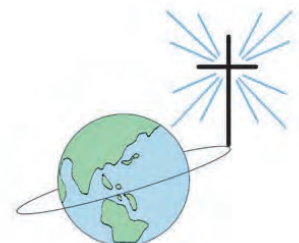
と三つのことが挙げられています。

役員を務め過去を振り返りながら思うことは、JOMA加盟団体の担当者も世代交代が進み、集まりが新しい顔ぶれになるに連れ、草創期のようなサークル的な盛り上がりはなく、今や新たなテーマ、価値共有を必要とする事業革新の時期にあるということです。2011年総会では、JEA宣教委員会を交えて話し合いの時が持たれ、JEA側からの期待として、国内宣教に集中するJEAと共に、JOMAは日本の海外宣教を推進する専門機関として活躍することへの期待が確認されています。これに対して、JOMAは、JEAの傘下において、その役割を補完する団体というわけではなく、むしろ、福音派の枠組みを超えた、より広い教派的交わりを持つ特色を保ちながら、日本の海外宣教を代表し、リード推進することで、JEAの期待に積極的に応えていく団体となる、というコンセンサスが持たれました。

そこでこの数年は、規約改正、事務局体制の整理、パート主事の公募、専門委員の設置という様々な組織整備がなされてきました。また、働きについては、JOMAの目的と海外宣教の動向を踏まえて、①啓発、②宣教師のメンタルケアと子女教育、③要配慮環境での働きの三の分野を重点項目として、JOMAの活動を推進していく流れができました。



新約聖書の究極のテーマは、パウロが言う奥義の実現(エペソ3:6)、あるいはヨハネのあらゆる民族、国民からなる新天新地のビジョン(黙示録7:9)の完成にある、と見ていけば、海外宣教は、教会の大小を問わず、すべての教会の使命として理解されなくてはなりません。海を越えて出ていくだけではなく、国内の外国人を包み込んだ多文化的な教会形成の発想を持つことが、私たちの働きの基本であり中心なのです。教会のサイズではなく、こうした教会の質に意識を集中させていくことに、JOMAの働きも重要な貢献をしているように私は思います。日本の諸教会の海外宣教部門、またそうした諸教会を背景とした宣教団体が、日本発の効果的な海外宣教を求めて協力するのみならず、日本の教会の在り方を多文化的なものに変え、主の御国に近づくことを、期待するものです。



カナダ事情ーグレーストロント日本語教会の場合

村井優人・春美



2012年新年礼拝後、教会の前で

1983年以来カナダ・トロント在住。優人が1992年トロント地域日系教会を辞任以来、夫婦してチャーチ・プランティングに入る。1996年優人はアメリカ長老教会PCAにて按手。以来グレーストロント日本語教会牧師。春美は2000年以来、現地日系老人ホーム介護士。2001年家内の春美と共にアンテオケ宣教会宣教師に認定。2012年8月春美は介護士を定年退職。同年9月、長女と共にトロント・ダウンタウンにて日本語キリスト教保育園「こども園チャイルドケア・センター」を開園。今日に至る。

以上が、簡単な履歴で、トロント在も今年で丸30年になりました。トロントは、元々現地語で「出会いの場所」の意味です。その間、多くの日本人・カナダ日系人の皆さんとの出会いがあり、現地日系教会の誕生や存亡も垣間見てきました。



女川浩輝くん洗礼式のあとで (2012年1月29日)

もう見てお分りのとおりです。当日本語教会は、在トロント国際結婚もしくは日本人同士のカップルとその子どもたち、ワーホリ・学生等を対象とした伝道・牧会が主目的の教会です。この者たちはPCA、アンテオケ宣教会所属ですが、基本的にチャーチ・プランターです。「こども園」は、現地日本人コミュニティーと教会を結ぶ架け橋です。

この30年間、トロントの邦人教会は7つから4つに減りました。海外での日本人入信率は高く、当教会も多くの洗礼者に恵まれました。が、ほとんどの皆さんが帰国され、教会建設＝教会を担う「永住者による教会核づくり」は困難です。現在の最大課題が、これです。

最近、古代日本人の宣教が景教徒によってなされたこと、彼らはチャーチプランターであり、使徒パウロとおなじ自給伝道者であった、彼らはthe Channel of Peace of Jesus Christ' であった、という内容の本を読みました。おなじ使命に立つ牧師が起こされ、トロントで主の働きが継続・続行されることを祈るものです。お祈りくだされば幸いです。



2012年12月8日トロント連絡会主催のジョイント・クリスマス・コンサートにて。



グループバイブル・スタディのあとで (おそらく2012年7月)



●カナダ基本情報

カナダ

面積： 約997万平方キロ

世界第2の面積を有する国土は、山岳地帯、草原地帯、森林など多様だが、大部分は人のほとんど住まない荒野や北極地方のツンドラ地帯である。

	人口	増加率	人口密度
2010	3,389万人	+0.96%	3/km <sup>2</sup>
2020	3,710万人	+0.86%	4/km <sup>2</sup>
2030	4,010万人	+0.73%	4/km <sup>2</sup>

首都： オタワ 1,182,230人  
 他の主要都市： トロント 5,500万人、モントリオール3,800万人、バンクーバー 2,200万人  
 都市居住者： 80.6%  
 15歳未満： 17%  
 平均寿命： 80.6歳

先住民と移民がそれぞれ元々の文化を保ちつつ形成しているモザイク国家。文化の混合度が高いため、分類はおおよそのものである。

民族構成： ヨーロッパ系 80.0% - 英国系 36% (イングランド人：21%、スコットランド人：15.2%、大半は東部、中部、西部に在住)、フランス系 15.8% (大半はケベック在住。連邦制の下、英仏両方語を平等に公用語とするバイリンガル国家であるが、仏語話者の中には相当数の分離派がいる。)、混合系：14.5%その他のヨーロッパ系 13.7% - ゲルマン系 (6系統) 3.8%、スラブ系 (11系統) 3.1%、イタリア系2.2%、ドイツ、イタリア、ウクライナを含む全てのヨーロッパ民族がいる。アジア系11.7% - 中華系3.2%、南アジア系 (9系統) 3.1%、フィリピン人0.8%、アラブ系 (6系統) 1.1%、ユダヤ人 1.1%原住民 2.9% - カナダ先住民、及び混血民、75言語アフリカ系カリブ人1.6%、ラテンアメリカ系 1.5%、アフリカ人 1.1%、その他 1.2% (米国民、その他)

識字率： 99%  
 公用語： 英語、フランス語  
 全言語数： 169  
 土着言語： 86 (その内いくつかはほぼ絶滅)  
 聖書： 両約 4言語、新約 10言語、分冊 7言語、翻訳中 9言語

経済： 世界の主要な工業先進国の一つでありながら、G8メンバー国の中では公債額が最も低く、先進国の中でも数少ないエネルギー輸出国。鉱物や水などの豊かな自然資源により、経済の先行きは明るい。カナダが領有権を主張し係争中であるが、利益の潜在性の高い北極地域が、経済の将来を形作る可能性がある。雇用の大半はサービス業。米合衆国との貿易が全貿易の約70%を占める。

人間性開発指数順位： 182ヶ国中4位

公債： 対GDP 63.8%  
 一人当たり年間平均収入： \$45,085 (米国の95%)  
 政治： 複数政党による議会制民主主義に立つ立憲君主国。1867年カナダ自治領として英国の植民地から独立。特定の時期になると、フランス語圏のケベックとその他の英語圏諸州の二極化が先鋭化し、国としての統一性を脅かす最大要因となる。国土の中の広大な特定地域が、先住民へ返還されている。G8、及びG20のメンバー国。  
 宗教： 信教の自由があるが、あらゆる層で急速な世俗化と多元化が進み、社会と宗教の関係を容赦なく変えている。

宗教	人口比 (%)	信者数 (万人)	増加率 (%)
キリスト教	72.07	2,442.4	0.4
無宗教	19.09	646.9	2.1
イスラム教	2.90	98.3	4.9
仏教	1.10	37.3	4.0
ユダヤ教	1.10	37.3	1.0
ヒンドゥー教	1.00	33.9	3.1
シーク教	0.90	30.5	3.4
その他	0.75	25.4	2.4
中国系宗教	0.59	20.0	2.4
民族宗教	0.40	13.5	2.6
バハイ教	0.10	3.4	1.0

キリスト教	教派数	人口比 (%)	信者数 (万人)	増加率 (%)
プロテスタント	120	9.50	322.0	-0.5
単立	75	0.64	21.7	2.5
聖公会	2	1.87	63.3	-0.3
カトリック	5	40.09	1,358.7	0.8
正教	31	3.03	102.6	1.5
非主流	53	1.64	55.5	0.1
独立	--	15.30	518.5	-1.0

	人口比 (%)	信者数 (万人)	増加率 (%)
福音派	7.7	260.2	0.8
刷新派			
カリスマ派	6.4	216.7	1.6
ペンテコステ派	1.3	43.9	1.3

カナダ出身の宣教師： プロテスタント+単立+聖公会：5,200人、その内国内の長期宣教師2,500人 国際的な働き：122団体から122ヶ国へ派遣。



## アメリカ合衆国事情

アメリカ東海岸、ニューヨークを中心とした地域に10前後の日本語/日系教会があります。またボストン周辺にもいくつか、フィラデルフィア周辺、ワシントン周辺にもいくつかの教会があります。数年前からこのボストンからワシントンまでの日本語教会の合同ファミリーキャンプが持たれて、協力体制が出ているところです。しかし、私自身はニューヨークから車で30分圏の郊外の地域で伝道牧会をしていますので、ニューヨーク近郊の教会の働きに集中してご紹介したいと思います。



ニューヨークのマンハッタンにある日米合同教会を除けば、ここ30年以内に始まった比較的若い日本語／日系教会が多い地域です。そして、それぞれが特色をもって主に仕えています。90年代前半には多くの駐在の方がおられたこの地域ですが、その頃に比べれば、何分の一に減っているようです。その一方で、元々永住の方が少なかったのですが、少しずつ、ここに腰を落ち着けて生活して行こうという方々が増えています。教会にもその影響ははっきり表れています。それぞれの教会は、特色があって、一概には言えないのですがそれでも、どこの教会も、かなりの割合で永住の方々がおられて、教会の中心的な働きを担い、教会を支えておられます。ですから、10年、20年前よりも、「やっとなりができてきたと思ったらたくさんの方が帰国されて、また最初からやり直し」ということは減ってきたように思います。永住者で教会を支えておられる方々が、駐在や学生で来られた方々を歓迎し、共に歩んでいる、またそのような方々を迎えて、伝道をしておられる姿を見ます。



また最近いくつかの教会が始めておられるのが韓国系のクリスチャンの方々との協力です。牧師や牧師夫人の中にも韓国人／韓国系の方々もおられますし、韓国系の教会に場所をお借りしている教会、一緒に伝道しておられる教会もあります。もちろん、現地の英語の教会を借りて伝道をしている教会も多いですし、英会話クラスを伝道につなげる教会もありますが、最近はこの韓国の方々との協力の働きが祝福されているように思います。

かなり減ったと言っても、日本からの滞在者が10万人と言われるこのニューヨーク周辺地域、せっかくアメリカに来たのだから・・・と英語の教会に行かれている方々、また英語の教会で信仰に導かれた方々もたくさんおられます。しかし、やはり、心の深いところに届く言葉としての日本語での働きがこれからも必要だと思います。それぞれの教会は小さく力がありません、続けてお祈りくだされば幸いです。

## ●アメリカ基本情報

### アメリカ合衆国

面積：約953万平方キロ。世界第3の面積と人口を持つ。

	人口	増加率	人口密度
2010	31,764.1万人	0.97%	33/km <sup>2</sup>
2020	34,615.3万人	0.82%	36/km <sup>2</sup>
2030	36,998.1万人	0.62%	39/km <sup>2</sup>

移民率が高く、年間の不法入国者は1,120万人、合法的帰化100万人と推定される。移民のゆえに、先進工業国で唯一、大きな人口増加が予想される国。

首都： ワシントンDC 4,459,904人

他の主要都市圏： ニューヨーク 1,940万人、ロサンゼルス 1,280万人、シカゴ 920万人、マイアミ/フォートローダーデイル 570万人、フィラデルフィア 560万人、ダラス/フォートワース 500万人、アトランタ 470万人、ヒューストン460万人、ボストン 460万人、デトロイト420万人、他に人口100万人以上の都市圏が32ある。

都市居住者： 82%

15歳未満： 20%

平均寿命： 79.1歳

民族構成： 歴史上類を見ない、多様な民族背景を持つ移民国家。人口100万人以上の民族背景が31ある。

白人： 58.1% (人種のつぼの結果) ラテン-カリビアン系アメリカ人： 14.7%、25グループ - ヒスパニック 9.5%、クレオール (白人と黒人の混血) 1.5%、メスティゾ (白人と先住民の混血) 1.4%、プエルトリコ人 0.8%、アフリカ系アメリカ人： 12.2%、8グループユーラシア系： 6.6%、63民族 (アイルランド系 1.9%) ユダヤ人： 1.8%、7グループ東アジア系： 1.6% - 韓国系 0.7%、中華系 (7グループ) 0.7% アラブ系： 1.4% - レバノン系アラブ人 1.0%、その他17グループ マレー系： 1.1% - フィリピン系 1.0%、その他8グループ南アジア系： 0.7%、25グループ東南アジア系： 0.7%、25グループ北米先住民：0.6%、126グループ、550公認部族その他： 1.1% (アフリカ系、トルコ系、イラン-メディア系、チベット-ヒマラヤ系、太平洋諸島民、マレー系類縁などを含む)

識字率： 99% (機能的識字率 85%)

公用語： 英語 (スペイン語話者のヒスパニック人口は、総人口の11.2%で3,400万人にのぼる)

全土着言語数： 176言語、その内77は絶滅に近い。世界のあらゆる地域からの移民により、今だに多くの言語や方言が使われている。総人口の約13%が、家庭で英語以外の言語を使用。

土着語聖書： 両訳17言語、新約26言語、分冊61言語、翻訳中12言語

経済： 今だ世界最大かつ、技術産業、工業、天然資源、農業、サービス業など最も多様な経済だが、1975年以来、家計収入の増加分は人口の20%の最裕福層が吸収し、貧富の差が拡大している。2008年から2009年の景気後退は、諸国の経済にも痛手を与えた。世界最大の輸入国であり、公債、民間、対外、内債すべてにおいて最大債務国。合衆国のGDPは世界のGDPの25%を占め、軍事支出は世界の軍事支出の50%にものぼる。世界で最も起業精神に富む経済であり、社会である。

人間性開発指数順位： 182ヶ国中13位

公債： 対GDP 60.2%

一人当たり年間平均収入： \$47,440

**政治：** 1776年に連邦共和国として英国より独立。北米大陸の西部、太平洋へと国民が広がるにつれ、独立当初の13州から50州へと拡大。個人主導と市民的自由を強調する強力な民主主義の伝統が、米国を世界のリーダー的存在へと押し上げた。三権分立による権力の抑制と均衡が組み込まれた政治システムは、権力乱用を制限しているが、意義ある政治的進歩を妨害しかねない。第二次世界大戦後、世界最先端の産業力、軍事力となったが、冷戦で40年間ソ連と対立した。冷戦後、及び9.11後の現実、新たな同盟関係による複合的で多極化した世界秩序の仕組みとなり、その中で合衆国は、以前同様の支配的立場ではなくなった。国内外のテロの脅威により、米国の海外での交戦が増加し、世界各地で米国外交政策への強い反発を生んでいる。

**宗教：** 憲法が信教の自由を保障。政教分離の原則は双方の保護を意図しているが、リベラル派と反キリスト教少数派により、公共の場での宗教活動の排除目的で誤用される一方、極右派はキリスト教神政政治に近い体制を主張し続けている。

宗教	人口比 (%)	信者数 (万人)	増加率 (%)
キリスト教	77.62	24,655.3	0.5
無宗教	16.50	5,241.1	3.3
ユダヤ教	1.65	524.1	-0.8
イスラム教	1.63	517.8	1.9
その他・新宗教	0.77	244.6	6.1
仏教・中華系宗教	0.75	238.2	2.6
民族宗教	0.46	146.1	2.3
ヒンドゥー教	0.42	133.4	2.0
バハイ教	0.11	34.9	-3.8
シーク教	0.09	28.6	3.4

キリスト教	教派数	人口比 (%)	信者数(万人)	増加率 (%)
プロテスタント	748	27.51	8,738.9	0.0
単立	223	7.81	2,480.3	1.5
聖公会	2	0.65	206.8	-0.6
カトリック	61	21.19	6,729.8	0.8
正教	75	1.67	530.7	0.8
非主流	361	3.64	1,157.7	0.6
独立	--	17.47	5,549.2	-0.6
複数教派所属	--	-2.35	-745.0	0.0

	人口比 (%)	信者数 (万人)	増加率 (%)
福音派	28.9	9,176.5	0.8
刷新派			
カリスマ派	19.8	6,276.4	2.4
ペンテコステ派	6.8	2,168.2	1.1

上記の数字は、何らかの形に組織化されたキリスト教の会員である。ある統計では、福音派が35%、カリスマ派が36%にもものぼらなっているが、各調査、報告書により帰属意識に大きなばらつきがあり、教派データからの裏付けはできない。そのこと自体、アメリカの宗教の動きを表している。

米国出身の宣教師： プロテスタント+単立+聖公会： 93,500人、国内の長期宣教師： 5万人  
国際的な働き： 700団体から211ヶ国へ派遣

The Operation World, 7th Edition (2010)

より抜粋 (邦訳：松崎ひかり)

## JOMAの活動

### ◆メンバーケア・ジャパン報告

土井圭子

日本ウィクリフ聖書翻訳協会  
メンバーケア担当主事



「メンバーケア・ミーティングを開くように導かれて」と題して2009年にJOMA通信に寄稿してから4年が経ちました。年に2回（春と秋）にメンバーケアの集会を持っています。2010年からメンバーケア・ジャパンという名称の下に集会を持つようになりました。今まで開かれたメンバーケア・ミーティングの内容を紹介します。

- ・メンバーケアとはなにか？
- ・ディブリーフィング
- ・メンバーケアの問題とチャレンジ
- ・ジョブ・ディスクリプション（職務内容）
- ・東日本大震災におけるディブリーフィング
- ・バーンアウト（燃え尽き症候群）
- ・グリーフケア（悲嘆からの回復へのケア）
- ・リトリート（修養会）

それぞれの集会で、トピックを挙げて学び、お互いに話し合うことにより、刺激を受け、励まされ、学んだことをそれぞれの持ち場で活用させていただいています。

これからはJOMAとも協力関係を持ちながら、メンバーケアの情報を国内外に発信して行き、良きネットワークを作っていきたいと願っています。次の集会は5月27日（月）に行われます。内容は子女教育です。興味のある方はご連絡ください。（連絡先：土井圭子 keiko\_doi@wycliffe.org）

### ◆ソウル協議会レポート

荒川恵水

筆者は、昨年10月25日～26日に韓国ソウルで開催されたソウル協議会(The Seoul Consultation)に発題者の一人として招待され、参加した。協議会の標題は、「韓国多文化社会の未来方向性」であるが、今日、韓国社会も日本社会と同様に多くの外国人が来て自分たちと共に生きていく多文化社会に移行していくべき挑戦を受けているのである。これらの社会現象の背景には、今日21世紀世界の特徴とでも言うべき「グローバル化」の影響がある。そのグローバル化の中で特に、イスラムのグローバル化すなわち、「イスラム化(Islamization)」の問題がこの協議会で討議された。

この協議会開催の背景には、次のような事情がある。今や人口の25%がキリスト者、米国に次ぐ第2の宣教師派遣大国となった韓国であるが、イスラム側はこの韓国を2020年までにイスラム化するというビジョンを持って彼らの宣教師を送りだしているとの由。彼らは先ず求道者として教会に入り込み、韓国の姉妹方(年輩の独身者)と結婚し、自国であるイスラム国に連れて行き、その後再度韓国に戻り、お世話になった韓国教会の牧師に自分たちはイスラムの宣教師である、と宣言し、牧師たちは大変なショックを受けている、という。イスラム側は、一般の韓国人より韓国教会のキリスト者を彼らの宣教のターゲットにしているところに事の重大性が潜んでおり、その対策として今回の協議会が開催された。

6カ国のイスラム化の問題が発題されたわけであるが、イスラム化のゆるやかな国から順番に発題され、各々の主題は次のとおりである。カンボジア「カンボジアにおけるイスラムとキリスト教宣教への挑戦」、日本「日本に対するイスラム化の影響」、カナダ「カナダの文化状況におけるムスリムとイスラム化」、オーストラリア「イスラム化の理解:オーストラリアでの経験と応答」、インドネシア「インドネシアにおけるキリスト者との関連でのイスラム急進主義の原動力」、マレーシア「連邦憲法、イスラム化およびマレーシアの法的秩序」。特に、オーストラリアのケースは、教会がオーストラリア社会にイスラム化の影響を啓蒙し、イスラム化の進展がとどめられている由、この点は、韓国教会にとって大きな示唆および励ましになった。各々の発題後、参加者である韓国教会指導者等との有益な質疑応答・討議の時を持った。

今回の協議会は、セキュリティの関係上、一般公開されず、参加者は限定されていたが、韓国教会の主要教派の指導者たち、宣教師関係者等が集まり、二日間の協議会であったが、密度の濃い会議となった。今回は6カ国が集まったが、今後はこの6カ国がまずは良きネットワークを作り、さらに拡大していくようにと願う。また、各国でソウル協議会をベースにフォローアップの協議会を持つことが肝要であると信じる。

## <2013年JOMA総会のご案内>

### ◆日時

4月23日(火) OCC 415号室

### ◆プログラム

JOMA懇談会 10:00~12:00  
 昼食 12:00~12:30  
 JOMA総会 12:30~14:30

### ◆JOMA懇談会

テーマ:これからのJOMA

(JOMAの活動の方向性について)

発題者:JOMA役員、専門委員候補

司会進行:JOMA書記福井誠

2011年は、JEA宣教委員会委員長の竿代照夫氏を招き、「JOMAと諸団体の連携を考える」をテーマに懇談の時を持ち、主としてJEAとJOMAの連携の在り方について共通のコンセンサスを得る機会となりました。2012年は、JOMAの今後の活動の方向

性を巡って、現在の世界宣教の動向の一つとしての要配慮環境への働きをJOMAの視野に入れるべきことが確認されました。2013年は、JOMAの今後の活動の方向性を明確にし、互いに連携し、日本の海外宣教を推し進める一歩を踏み出すことができればと思わされることです。お忙しいところではありますが、ぜひ参集し、祈り、よき懇談の時を主に導いていただく時といたしましょう。

### ◆JOMA加盟団体リスト

OMFインターナショナル日本委員会

OM日本

アンテオケ宣教会

イムヌエル総合伝道団 国外宣教局

チャーチ・オブ・ゴッド 国外宣教部

基督兄弟団海外宣教委員会

在欧日本人宣教会

東京フリーメソジスト教団宣教委員会

南米宣教会

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団海外伝道部

日本イエス・キリスト教団

日本ウィクリフ聖書翻訳協会

日本バプテスト教会連合

日本ホーリネス教団

東洋ローア・キリスト伝道教会海外宣教委員会

### イベント情報

#### ◆J+Passion Tokyo 2013

日時:5月6日(月・祝日) 10:30(受付開始 9:45)~17:30

場所:東京ライトハウスチャーチ

テーマ:匍匐前進 - ガラテヤ5:25

問い合わせ:open\_bible@mcn.ne.jp (大会事務局)

#### ◆日本ローザンヌ委員会主催 シンポジウム

「包括的な日本宣教を考える」

日時:5月11日(土)13:30~16:30

場所:お茶の水クリスチャン・センター8Fチャペル

テーマ:他の信仰を持つ人々の中でキリストの愛を生きる - 東日本大震災からの教訓を踏まえて

問い合わせ:japanlausanne.info@gmail.com

090-9396-2004(こんだ)

締め切り:2013年4月17日(水)

#### ●加盟団体募集中●

協力会員・団体会員を募集します。

会費年額 団体会員 60,000円

協力会員 12,000円

詳しいお手続きについてはお問い合わせ下さい。

JOMA海外宣教連絡協力会

発行者:山村英夫

住所:〒101-0062 東京都千代田区神田

駿河台2-1 OCCビル内6F、JOMA

メール:jomaofficekanda@gmail.com

(電話はありません)

ホームページ:http://joma.hope8.net/

郵便振替(口座名義:海外宣教連絡協力会/

口座番号:00160-7-106631)